

令和7年1月23日

日立理科クラブ通信



日立理科クラブ

No. 233

「理科室のおじさん」を訪ねて2 日立市立日高小学校

今回の「理科室のおじさんを訪ねて」は、日高小学校（井坂敏子校長）の佐々晴夫（ささ はるお）さんです。

佐々さんは日立市の出身です。子どもの頃は、野山を駆け巡り、冬はそり遊び、夏は魚釣りをするなど恵まれた自然の中でよく遊び育ったそうです。

理科クラブに入る前は、日立製作所の生産技術でものをつくるための技術などの仕事をしてきたそうです。

理科室や近くのスペースには、大きな瓶や水槽があり、クロメダカやヒメダカを飼育していました。

理科室では、実験の準備や理科コーナーをつくっています。理科コーナーには児童が遊びに来て科学おもちゃに触れていくそうです。実験の準備では、特に若い先生をフォローすることに気を配っているようです。先生方が実験をしやすいように計画的な準備や、環境整備等をしています。理科室にはホウセンカを育てていますが、6年生が、導管や師管など植物のつくりを調べるときにつかうため、早くから準備して育てています。また、動くおもちゃをつくっていました。子どもたち一人一人が楽しく、そしてよくわかるように準備しているようです。

おもしろい授業支援として、月と太陽の学習の話をしてくれました。児童に、「神様になったつもりで、ずっと遠いところからみてみよう」と話しかけるそうです。

地球上にいるよりもずっと遠いところから俯瞰（ふかん）した方が太陽や月の動きを考えやすいので、そのように話しかけるそうです。科学的な概念として、視点移動の力が大事だと言われますが、児童の視点を地球上からいっきにずっと遠いところへ変える魔法の言葉をあみだしたように思います。

子どもたちに伝えたいのは、「毎日の生活は理科で動いている」ということです。理科を生活と結びつけて考えたり、生活の中で理科を感じたりするようになってほしいと思っています。また、単元は皆つながっているということです。去年は何をやったかな、とよく聞くそうです。

学期に1回「お楽しみ理科教室」を開いているそうです。スライムやシャボン玉など体験し、親しみを感じる場をつくっています。

最後に、日高小学校のよさを聞きました。日高小学校は、一人一人を大事にする学校だと話してくれました。「雨水のゆくえ」の学習でも当日欠席した児童のために、後日補習の実験をしてくれるように依頼されたことがあるそうです。

理科室には電子黒板があり、授業で活用されています。一人一人の児童がわかりやすくなるように多くの工夫がされているのを感じました。

理科室から出ると、出会った児童が元気よく挨拶してくれました。



「理科室のおじさん」佐々晴夫さん



飼育しているメダカ



動くおもちゃを準備



実験の準備



電子黒板も効果的に利用